

活動報告

連携・ツールグループ



目的

スムーズな多職種連携のためのツールを考える。
そのツールを用いて他の専門職への理解を深め、
コミュニケーションを取り合い、多職種
間の顔の見える連携を構築する一助とする。
医療、介護の現状は容易に変貌し、その変化に
応じた連携のしかたを考えていく



成果

平成25年度

- 1、心不全の日常生活チェックリスト

平成26年度

- 2、認知症患者のための情報共有ツールの作成
- 3、医療・介護連携シート（入院時情報提供用紙）

平成27年度

- 4、誤嚥性肺炎予防パンフレットの作成

平成28年度～29年度

- 5、認知症啓発に係るパンフレットの作成
- 6、多職種間で使用できる情報共有シート「こぶしネット・情報共有シート」

平成30年度～

- 7、MCS（メディカルケアステーション）を利用したこぶしネット会員間の情報共有開始



こぶしネットの活動を通じて感じたこと

- 多職種連携が進んでいることが実感できた
- 他の職種や行政が身近に感じた
- 気軽に質問ができるようになった



こぶしMCS連絡帳について

- 東淀川区の在宅医療連携を考える会「こぶしネット」において、使用されるICTシステム
- 目的：地域包括ケアに携わる多職種間および専門職と患者・家族との間の連携コミュニケーションの活性化により、医療・看護・介護の質を向上させ、地域包括ケアシステムの構築及び発展に貢献することである。
- 他の連絡手段との使い分け
緊急の用件では、MCSのみでの連絡は行わないで、電話を利用する。



模擬事例(MCSを利用して)

- 褥瘡などの皮膚疾患を画像で発信できるので共有に役立つ。
- 医師からの患者、家族への説明について共通理解できる。
- 薬剤についての情報を共有でき、対応が早くなる。
- ケアプランの変更やサービス調整の情報が入手しやすい。



今後の展望

- MCSの普及を他のWGと共同で行いたい。特に災害時の連絡、情報共有としてのMCSの利用や、患者グループのMCSでのACPに関する共通理解を進める。
- 作成したツールの利用促進のため、ホームページの活用と充実を社会資源WGと共同作業していきたい。
- 今までのツールの見直しを行う。
- 新たなアイデアを出し合う。



コロナ禍における課題

- フレイル予防の普及、啓発
- フレイルの進行を関係者が情報共有する
- 評価

